

◆昨今のコロナ禍の状況に対応した、初のWeb会議併用による代議員会を開催。

◆令和4年度事業計画・予算等を報告。次期日医代議員・予備代議員を選出。

◇総務部◇



松家会長の挨拶



小玉副知事の来賓挨拶



Web併用全体風景



Web会議による代表質問

第161回臨時代議員会を去る3月13日（日）午前10時、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の一環として、Web会議 [Zoomミーティング] 併用にて当会館のほか、全道の代議員を結ぶ形で開催した。

冒頭、本間議長の進行により、議事録署名人の指名の後、会長挨拶、来賓挨拶に続いて、議案審議に入り、議案第1号「日本医師会代議員選挙の件」および議案第2号「日本医師会予備代議員選挙の件」については、前号掲載の選挙結果のとおり選出された。

議案第3号「令和3年度会費減免に関する件」については、令和3年度に申請のあった申請者の会費

減免につき理事者提案のとおり承認された。

令和3年度補正予算、令和4年度事業計画、令和4年度予算の報告の後、代表質問ならびに一般質問を受け、理事者からそれぞれ答弁を行った。

◇代表質問◇

1. 上埜 博史 代議員（中央ブロック）
「オンライン資格確認等システムについて」
（答弁者：橋本常任理事）

◇一般質問◇

1. 多米 淳 代議員（中央ブロック）

「5～11歳の新型コロナワクチン接種への加算について」

（答弁者：三戸常任理事）

2. 橋本 茂樹 代議員（中央ブロック）

「広大な北海道での災害時リハビリテーション医療の円滑な展開のために」

（答弁者：青木常任理事）

質問終了後、荒木常任理事より本代議員会の名において決議文作成の提案がなされ、各ブロックの起

草委員につき議長から指名の後、別室およびZoom会議ブレイクアウトルームにて起草委員会が開催された。

その後、起草委員会で検討した決議案（別掲）を採択した（この決議文は日本・都府県・都市医師会、政府閣僚、政党、国会・道議会議員、知事、道内自治体首長、「日本の医療を守る道民協議会」構成団体およびマスコミほか関係各方面に送付し、各項目の実現に向けて要請した）。

最後に、松家会長より閉会の挨拶が行われ本代議員会の全日程を終了した。

〈事業計画・予算関係、質疑応答等は、順次当会ホームページに掲載予定〉

決 議

2019年12月に始まった新型コロナウイルス感染症が、未だ終息の兆しを見せず猛威を振っている。

新型コロナウイルスとの闘いを通じて、我々医療界は強固な連携の重要性を再認識し、一丸となって医療提供体制を維持してきた。国民の健康なくして健全な国家は成り立たない。岸田首相が「新自由主義からの転換」および「新しい資本主義」を進める中、分配政策の中心となるべき社会保障のより一層の充実およびさらなる財源の確保を求める。

本道では、将来の人口構成や医療需要の変化が予測される中、地域医療構想、外来医療計画、医師確保計画等の議論が進められている。同時に、医師の長時間労働を解消するため、医師の働き方改革が行われている。いずれも、地域住民の理解を得ながら丁寧に議論を進め、我々は一致団結して医療提供者および住民がともに安心できる地域医療の維持、発展に努めなくてはならない。

その実現のため、以下の事項を強く要望する。

記

- 一、 世界に誇る国民皆保険を堅持すること。
- 一、 社会保障の財源を十分に確保すること。
- 一、 控除対象外消費税問題の抜本的解決を行うこと。
- 一、 地域医療構想、外来医療計画、医師確保計画の推進にあたっては、地域の実情を十分に考慮した上で、医療提供者、地域住民がともに安心できる医療体制を維持・構築すること。
- 一、 医師の働き方改革は、医師の健康と地域医療がともに守られるものであること。
- 一、 メディカルウイング（患者搬送固定翼機）の運用にあたっては、社会的ニーズに対応可能なように適用範囲を拡大すること。
- 一、 災害発生時や新興・再興感染症の流行時は、適確な医療が円滑に提供できるよう医療提供体制の充実をはかること。
- 一、 北海道の次代を担う若い世代が、希望をもって医師を目指すことができるよう地域医療体制および医師のキャリア形成の仕組みを構築すること。

令和4年3月13日

一般社団法人北海道医師会
第161回臨時代議員会